

商品活動実績報告書	商品名： 中小企業の中国ビジネス支援	
	報告日 平成 19 年 1 月 4 日	報告者 松崎 一成
商品グループ名	グローバル化研究会	
代表者名	浅子 弘	
連絡者名及び連絡先	浅子 弘 (hiroshi.asako@themis.ocn.ne.jp)	

1. 中国ビジネス支援サービスの概要

(1) 支援対象企業および支援対象分野

近年の中国経済の発展によりに日中経済関係は競合から共生・連携の時代にある。どのような共生・ビジネス連携を考えるかは、図1に示す産業の発展レベルを基に考える必要がある。

主要産業の到達段階	中国		
	導入期	成長期	成熟期
日本	成長期	環境	精密機械
	成熟期	自動車	ITソフト
	衰退期	-	パソコン
			白物家電

図1 中国・日本の主要製品ライフステージ

日本企業から見た中国との分業・ビジネス機会は、当然中国で導入期、成長期にある製品を支える産業分野である。それらは、大型・精密など技術レベルが高い金型とそのメンテナンス、プラスチック成型、プレス加工、機械加工、ソフトウェア・情報サービスなどの分野である。

一方、中国市場の開放と拡大にともない、日本企業にとって中国は輸出生産基地から、R&Dを含めた一貫生産拠点(中国市場向け製品の開発、中国内調達のための現地設計、優秀な人材活用)へ移行しつつあり、この面からも日中企業のパートナー関係も変化しつつある。

当グループとしては、今後の成長が期待できるライフステージおよび幅広い製品での需要が見込める点から、機器への組み込みソフトを含むソフトウェアとメンテナンスを含む金型分野を当面主要な支援対象とする。進出対象地域としては、日本企業の進出が多くソフトウェア開発の環境整備の進んでいる大連および、一貫生産拠点として市場に近く、物流や資材調達にも優れ、優秀な人材の確保もしやすい上海周辺を拠点として取り組んでいる。それぞれの拠点には、当グループの中国側パートナーが所在する利点もある。

(2) 中国ビジネス支援サービスの具体的内容

現地進出ステップに沿った具体的支援内容は次の7項目で、支援は専門家チームでおこなう。

- セミナーなどで現地最新情報の紹介
- 個別相談会
- 現地視察ツアー
- フィージビリティ・スタディ(F/S)作成支援
- 関係行政機関の紹介
- 契約、届出、リクルート、資金調達等各種支援
- 進出後のフォローアップ、アフターケア

2. 営業活動および販売促進の方法

具体的な営業活動、販売促進活動はまだ行っていないが、前述のセミナーの開催、個別相談会、現地視察ツアーなどは主要な方法と考えている。そのためには現地の最新情報を収集することが必要である。中国経済はまさに急成長を続けており、インフラ等をふくめた経済情勢は、刻々と変化している。当グループでは大連、上海周辺地域に関する機関・人脈を介して常に最新の情報を取り揃えているが、一方で、更に詳しい生の現地情報を顧客に提供できるように、我々自身で現地調査を行い、情報を収集する活動を適宜行っている。今報告は平成17年秋に上海周辺地域及び内陸部で行った、現地調査、情報収集活動の事例である。

3. 実績事例紹介：「中国はどう変化したか」上海周辺地域及び内陸部の状況

調査の目的		調査地域	
a. 中国の経済環境の変化に伴い中国企業（国有企業）がどう変わってきているか、b. その変化を裏付ける人材、技術にも焦点を当てる、c. 大都市部だけでなく、遅れていると思われる内陸部を見ることで変化の広がりについて確認する、d. 最近進出した日本の中小企業が現地でのように感じているか、など、今後の日中パートナー関係のあり方を見極める材料を集める。		<p>イ. 上海市、 ロ. 江西省南昌市 ハ. 同上饒市、 ニ. 浙江省杭州市 三. 浙江省 四. 江西省 五. 江西省</p>	
参加者：グローバル化研 馬場賢、辻秀志、松崎一成		日程：2005.10.30(日)～11.6(日)	
日程	場所	活動内容(目的項目)	
10/30(日)	上海	成田 - 上海 (18.30 - 21.00)	
31(月)	江西/南昌	中国企業経営者向けセミナー(a,b,c)	
11/ 1(火)	同/上饒	国有企業工場見学及び管理者セミナー(a,b,c)	
2(水)	同/三清山	三清山観光	
3(木)	浙江/杭州	日系独資企業(製造業)訪問見学と情報交換(d)	
4(金)	上海	中国企業工場見学(a,b) 及管理者向けセミナー(d)	日系現地ディベロッパー訪問(d) ジェトロ上海事務所訪問(全)
5(土)	上海	第7回上海国際工業博覧会見学(b)	
6(日)	帰国	上海 - 成田 9.25 - 13.10	

以下項目内容別に紹介する。

中国企業経営者向けセミナー 10.31(月): 江西省南昌市

- ・江西省の概要：上海南西部の内陸の省で南昌市がその省都である。気候は温暖、銅や石灰等の鉱物資源と農産物が主要な産物で、開発は遅れている。

- ・セミナーの主催：江西省国有資産管理委員会と同行政工商管理局、共催：中国国有企業F 集団
- ・出席者：国営企業と私企業の若い経営者・管理者（約 100 名）
- ・会場：当地国有企業の大規模な研修センター講堂、設備はよい。
- ・メインタイトル：「日本製造業の発展と企業管理専門講座」
サブテーマとして「日本製造業 30 年の盛衰」、「強い企業体質つくりへの努力」、「日本製造業の企業文化と生産革新の取り組み」の各テーマを 3 人で、通訳(T 氏)を入れ 3 時間の講演をした。



経営者向けセミナー

この後、江西省経済管理幹部学院校長から生産管理、品質管理講座等の連携の話があったが、F 集団董事長 R 氏の話を含め、当地では国有企業の管理レベル向上にかなり熱心な様子であった。

- 1 国有企業 F 集団本社工場の見学 11.1(火)：江西省 上饒市

当社は、現在中国で唯一の光学儀器（カメラ、顕微鏡等）の国有企業である。各種光学機器用レンズ及び金属精密部品と完成品を生産している。主力は部品加工で従業員は約 2000 名。

レンズの加工プロセスは「4 M の絶妙な組合せ」であるが、現場は「広範囲で見える化」されている。日本企業の指導で日本の管理手法をかなり徹底して取り入れられている。

- 2 F 集団本社工場の管理者向けセミナー

50 名以上の管理職に対して約 90 分の「管理の要点」の講座を行った。「事例や演習」がはさめず「理論編」になったため、「少し難しかったか」の感があるが、多くの出席者は、管理の世界にも何か「基本ルール」がありそうだというのは理解されたと思う。

日系独資企業 Y 社を訪問 11.3(木) 浙江省杭州市

江西省から、杭州市に向かう行程は、ハイウェイで 5 時間半のドライブであった。杭州市内に近づくと、立派な家並みが随所に見られ、日本の小規模マンション風であるが、万元戸の個人住宅で 4 階建ての瀟洒な作りである。かつて上海郊外がそうであったが、それが杭州市郊外に移ってきたようだ。

Y 社は、杭州市経済技術開発区内の出口加工区に所在し、デジタルビデオ、ウォークマン等で必須の主要ユニットを金型設計・製造からプレス加工、組立まで一貫した「高付加価値生産」を行っている。

30 代後半の若い Y 社長がトップで、日本人 14 名、従業員 750 名、内派遣社員 550 名は派遣会社に杭州市周辺から集めて貰い定着率は良い。管理スタッフも市内居住者を採用、日本語学校にも通わせ定着率は良い。部品、材料の現地調達率は 70～80%、殆んど日系で、中国企業との取引は今後慎重に進めたいとのこと。また日本人スタッフ、現地人スタッフともに人材育成ニーズは高いようであった。

Y 社長が現地で感じていることは、中国人は教えればできるが、教えられていない企業のレベルは低い。しかし日本との差は時間の問題で追いつかれる、最終的には「うちしかできない」ものを身につける必要があるが、当社としては「中国でやっていける確かな見通しはついた」と話していた。

F 社上海工場訪問（F 集団設立の株式会社（上海市場上場）の生産部門）：11.4(金)午前

上海市西北側の新しい工業区内にある。広い土地と緑の多い環境の中に開設した新工場。今回のアレ

ンジしてくれたT氏が社長である。建屋、土地スペース共に今後の新規事業展開への十分な余裕がある。製品はレンズ部品、ユニットで、全社営業部門の上海出先機関もここにある。従業員約 700 名。

江西で行った中間管理職向けのセミナーをここでも再度行った。(出席者約 50 名)

上海H社(日系ディベロッパー)訪問: 11.4(金)午後

当社は、開発区の土地を確保して進出日本企業に提供するだけでなく、ソフト・サービス(進出時の手続き、人材教育、製品の相互販促等)まで包括した日系企業進出支援(「中国進出を意識せず」国内工場移転感覚で行えるコンセプトの支援計画)をHPに掲載しており、その話を聞くべく訪問した。

H社長の話では、当計画は上海総領事に呼ばれて「日本企業はどう生きて行けばよいか」を聞かれ「技術と資金の移動」をベースに一年かけて書き上げた。賛同してくれる人もかなりいたが、SARSと電力問題がおきて、現在中断状態になっているとのことであった。

ジェット口上海事務所訪問: 11/4(17.20~18.30)

期待した「現地密着の生情報」として目新しい情報は、得られなかった

第7回上海国際工業博覧会見学: 11/5(土)(9.00~15.00)

博覧会の概要は、電子情報、製造技術、電力設備、コントロール技術及び科学技術分野の7展示会場を設け、展示総面積は 82,500 m²、出展社は 1,298 社。海外からは、日本、独、米国、露など 21 の国と地域の 240 社が出展。50 社が日系企業。日本の自治体では、大阪市、横浜市、岐阜県、宮城県が参加。中国国内 27 の省・直轄市の企業が参加。上海市以外の参加比率が 45%。

我々は、製造技術機械加工機コーナーを中心に、精度・速度に着目して主要な機器を確認、カタログを集めたが、この博覧会から中国の製造技術のレベルを窺い知ることは無理であった。

中国ではこの種の展示会等には多くの見学者が押しかけるのが常だが、今回は見学者数は少ない感じがした。とくに中国企業の技術者や技術系の学生が見学に来ている様子はあまり見えなかった。中国の技術者・経営者はまだ国産技術に関心・信頼が少ないのかもしれない。

(2) まとめ

今調査で全ての結論は出せないが、中国企業は国有企業においても意欲的な経営者のいる企業はかなり飛躍的に変化してきており、とくに若い経営者がその推進力になっている印象である。従来沿海都市部がリードしてきた改革の波が徐々に内陸部にも広がっていることも感じた。一方で日本からの進出企業においても環境変化を読み取り、リスクと自らの強みを認識しつつ挑戦している若い経営者がいることは大変心強かった。そして双方の経営者とも人材教育の必要性を強く持っていることがわかった。今回、十年來の朋友であるFグループトップのR氏や上海F社社長T氏の協力で内陸部の国有企業との交流や工場見学が実現できた。筆者が10年前に訪問した時は日本に比べ30年の遅れがあると感じたが、現在は背中に見えるところ迄来ている印象である。当時の上海-江西間は10時間の列車の旅であったが、今では飛行機と車により4~5時間で往来でき、道路や通信インフラ整備の早さが、内陸部を含めた改革を先導していることを強く感じた。以上